

1 はじめに

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大によって例年と違うスタートとなった。学校での生活様式も変わり、子どもたちにとって制限の多い中での生活を強いられるようになった。しかし、このような事態だからこそ、子どもたちができることを話し合い考えていくことは、自主的・実践的な態度が育つよい機会でもある。以下では、今年度の実践及び、本校の特徴的な活動である『いじめノックアウトフォーラム』を紹介する。

2 資料

(1) 今年度の実践について

ア 感染症対策を呼びかけるポスター作り

6月初めの第1回委員会の中で、自分たちにできることはないかを話し合い、各ブロック(低・中・高)に掲示できるポスターを作成した。学年の実態に合わせて分かりやすい言葉や絵などを工夫し、感染症対策の意識付けを図った。



児童が作成したポスター

イ 代表委員会の招集

本校は、新校舎が完成し、引っ越しを予定している。それに際し、『校舎の思い出プロジェクト』に応募し、お世話になった旧校舎に絵を描く行事を令和3年2月に行うことになった。この大きな行事に全ての児童が関わられるよう、代表委員会を設置した。全クラスから1名代表委員を選出し、代表委員会では、重要事項の伝達や各クラスで話し合ったことの報告を行ってもらった。それにより、全学年の意見を取り入れてプロジェクトのテーマを決めることができた。



代表委員会の様子

(2) 『いじめノックアウトフォーラム』について

活動は大きく2つに分けられており、1学期は、各クラスでいじめ撲滅のためのスローガン作りを行う。道徳の時間や学級活動の時間にいじめに関する題材などを取り扱ったうえで、作成することでいじめ撲滅に対する意識を高める。2学期には、事務局委員会の児童が中心となり、人権集会を開く。児童が中心となって呼びかけることで、子どもたちが自分ごととして捉えられるようにしている。劇やアンケートの結果報告など、毎年工夫を凝らして集会を行っている。



いじめに関する劇



アンケート結果の報告

3 成果と課題

児童が選択する場面を設定することで、自主的に活動を行う児童が増えていった。また、自分たちが今抱える問題を取り上げることで、その課題を解決しようとする自主的・実践的な態度が育っていったと思う。集団の問題を自分ごととして捉える力が大切であるが、集団での取り組みになると受動的になってしまう児童もいる。児童一人一人が活躍する場面を作っていけるかがこれからの課題である。